

ソフトバンクグループ 生成AI特許世界首位の深掘り調査レポート

作成者: Manus AI

作成日: 2026年7月15日

改訂日: 2026年7月15日（IPプロ向けレビューコメントに基づく精度向上改訂）

1. はじめに：WIPO報告書が示す生成AI特許の爆発的増加

2026年7月14日、世界知的所有権機関（WIPO）は生成AI（GenAI）特許動向に関する最新の報告書「Technology SPARK Report: Patent Trends Update in GenAI」を発表しました¹。この報告書によると、2024年と2025年のわずか2年間で公開された生成AI特許ファミリー数は56,000件を超え、過去10年間（2014～2023年）の累計を上回る爆発的な増加を記録しました。

この特許ラッシュの中で最も注目を集めたのが、日本のソフトバンクグループ（SBG）です。SBGは2024年から2025年にかけて約3,000件（2025年単年で大部分が公開）の特許ファミリーを公開し、中国のTencent（騰訊）やBaidu（百度）、米国のAlphabet（Google）などを抑えて、単一企業として生成AI特許の世界首位に躍り出ました¹。本レポートでは、この劇的な首位獲得の背景にあるSBGの戦略、技術的特徴、そして特許の「質と量」に関する議論を深掘りします。

2. ソフトバンクGの圧倒的な出願戦略

2.1. 「大量出願」の衝撃と手法

WIPOのデータ（特許ファミリーベース）では約3,000件とされていますが、日本の特許庁（JPO）公開公報データを集計した民間分析によると、SBGは2023年秋頃から短期間に約1万件もの特許を出願しており、2025年4月にはわずか2日間で約3,500件が一挙に公開されるという異例の事態が発生しました²³。

この大量出願を可能にした背景には、以下のような手法と体制があります。

全社アイデアコンテストの活用: 2023年秋、SBG社内で「ChatGPTや生成AIを使ったビジネスアイデア」を募るコンテストが開催され、集まった約4万5,000件のアイデアを知財化の種としました³⁴。

AIとテンプレートによる量産: 特許図面の流用、共通する説明文のテンプレート化、そして生成AI自体を活用した文章構成により、短期間での大量出願を実現しました。1件あたりの出願費用を約30万円と仮定した概算試算では総額約30億円規模の投資となります³。

優先権制度を活用した「後から肉付け」: まず簡素なアイデアで広く網を張り、市場動向を見ながら有望なものを選別します。出願から1年以内に「国内優先権」を主張し、情報処理的な内容

やハードウェア構成など詳細な記述を大幅に（数万文字規模で）追加して特許の質を高める戦略を採っています。本レポートでは便宜上、この手法を「スタートアップ型権利化戦略」と呼びます 4。

2.2. 注力する技術領域：社会実装と「感情」

SBGの特許は、基礎的なAIモデルのアーキテクチャよりも、**AIの社会実装（アプリケーション・サービス）**に重きを置いています。

主要分野: 医療・介護、法律相談、オフィス系システム（議事録作成等）、公共安全・防災など、生成AIを用いた具体的なソリューションが中心です 5。

「感情」の組み込み: ロボット「Pepper」で培った感情制御の知見を活かし、生成AIのプロンプトや動作制御に「感情」の要素を組み込む特許（共感エミュレート型AIなど）が多数見られます 4 5。

3. グローバル動向と競合比較

WIPOの報告書から読み取れる、生成AI特許のグローバルな勢力図は以下の通りです。

順位	企業名	国・地域	公開特許ファミリー数 (2014-2025 累計)	特徴・動向
1	SoftBank	日本	2,985	ほぼ全てが2024-2025年に公開。AIインフラ・実装に特化。
2	Tencent	中国	2,074	累計では上位維持も、直近の伸びでSBGに逆転される。
3	Ping An	中国	1,564	金融・保険分野でのAI活用を牽引。
4	Baidu	中国	1,234	中国の検索・AI大手。
5	State Grid	中国	1,144	中国国家電網。インフラ・エネルギー網の最適化で急浮上。
8	Alphabet	米国	1,083	米国企業トップ。Geminiなど基盤モ

				デル開発をリード。
10	Microsoft	米国	865	OpenAIとの提携を軸に特許ポートフォリオを拡大。

(出典: WIPO "Technology SPARK Report: Patent Trends Update in GenAI" 2026年 1)

モデルの主役交代: 過去の主流であったGAN（敵対的生成ネットワーク）を抜き、LLM（大規模言語モデル）が特許件数で首位（2025年で約14,100件）となりました。また、画像生成を支えるDiffusion（拡散）モデルも急成長しています 1。

非テック企業の台頭: 上位に中国国家電網（State Grid）やBosch（ドイツ）がランクインするなど、通信、金融、インフラ企業がAI特許競争に本格参入しています 1。

4. ソフトバンクGの「ASI（人工超知能）」ビジョンと垂直統合戦略

SBGの特許戦略は、単なる数合わせではなく、孫正義CEOが掲げる「ASI（Artificial Super Intelligence: 人工超知能）プラットフォームプロバイダー世界一」という壮大なビジョンと連動しています 6。

基盤モデルとAIエージェント: 子会社SB Intuitionsを通じて、4,600億パラメータ級（2026年7月時点の公表値）の国産LLM「Sarashina」や軽量版「Sarashina mini」を開発・提供 7。さらに、社内業務から社会全体へ展開する自律型AIエージェントの構築を進めています 6。

インフラの垂直統合: Arm（半導体設計）やGraphcore（AIチップ）の買収に加え、OpenAIが主導し報道ベースで約5,000億ドル規模とされる「Stargate」AIインフラ計画に参画（Oracle等と共同で米国にデータセンター群を建設）しています 8。日本国内でもNVIDIAの最新GPU（Blackwell）を用いた「AIデータセンターGPUクラウド」や「AI-RAN（AITRAS）」の構築を進めています 8。

OpenAIとの強力な連携: Vision Fund 2を通じてOpenAIに累計646億ドル規模の出資を約束（2026年2月に追加投資合意）し、日本市場向けの合併会社「SB OAI Japan」を設立するなど、世界最高峰のAI技術との連携を深めています 9。

5. 課題と展望：特許の「質」と「国内偏重」への懸念

SBGの戦略は高く評価される一方で、専門家からはいくつかの懸念も指摘されています。

特許の「質（歩留まり）」: AIとテンプレートを駆使した大量出願のうち、実際に審査を通過して強力な権利（モート）となる特許がどれだけ残るかは未知数です 3 5。

国内偏重と技術流出リスク: 公開情報・専門家コメントに基づく観測では、SBGの今回の大量出願は、現時点では日本国内での権利化に特化しており、国際特許出願（PCT出願など）の比率が低い状況にあるとみられています。特許は属地主義であるため、海外で権利化されなければ、公開された技術内容は海外企業にとって「フリーライド（使い放題）」となり、事実上の技術流出を招く恐れが指摘されています [2](#) [10](#)。

審査システムへの影響: 1企業による短期間の大量出願は、特許庁の審査リソースを圧迫し、日本の知財システム全体への影響も懸念されています [10](#)。

6. 結論

ソフトバンクグループによる生成AI特許の世界首位獲得は、同社が「投資会社」から「AI実装のインフラ企業」へと自己変革を遂げつつある強力なシグナルです。全社を挙げたアイデア創出とAIを駆使した特許量産手法は、AI時代の新しい知財戦略のモデルケースと言えます。

今後は、この膨大な特許群からいかにして強力な「キラー特許」を選別・育成し、Armの半導体技術、OpenAIの基盤モデル、そして自社の通信インフラ（AI-RAN等）と掛け合わせて「ASIプラットフォーム」の収益化（ライセンスビジネスやサービス独占）を実現できるかが、孫正義氏のビジョン達成の鍵となるでしょう。

References

- [1] WIPO (2026). "Technology SPARK Report: Patent Trends Update in GenAI." Geneva: WIPO.
- [2] 日経クロステック (2025年6月16日). "ソフトバンクG、1万件超のAI関連出願 その狙いと影響を探る."
- [3] IP FELLOWS (2025年11月12日). "ソフトバンクの特許戦略が異常！ 1万件出願の裏側とAI時代の知財戦略を徹底解説."
- [4] 弁理士法人オンダ国際特許事務所 (2026年4月8日). "感情と生成A Iを融合させるソフトバンクの出願革命."
- [5] note (mahjong_lab) (2026年4月23日). "ソフトバンクグループ2025年知的財産戦略：1万件出願の正体と「AI実装の知財要塞」への再評価."
- [6] SoftBank Group Corp. (2025年7月). "CEO Message—SoftBank Group Report 2025: Becoming the World's No. 1 ASI Platform Provider."
- [7] SoftBank Corp. / SB Intuitions Corp. (2025年11月5日). "SoftBank Corp. and SB Intuitions Launch 'Sarashina mini' API."
- [8] OpenAI / SoftBank Group Corp. (2025年9月24日). "OpenAI, Oracle, and SoftBank expand Stargate with five new U.S. AI data center sites."
- [9] SoftBank Group Corp. (2026年2月27日). "Follow-on Investments in OpenAI."
- [10] IAM Media (2025年8月18日). "Japan: AI and extraterritoriality dominate patent landscape as JPO refines examination practice."